

	有害事象には、治療合併症を含め、すべての事象を含む	有の場合 治療との関連性	不明 関連なし、関連を否定できない、関連あり、不明・判定不能
◆個別治療情報（「同時他治療数」欄で1以上を選択した場合には、各治療について個別に回答する）			
13	治療責任医師	指導医、専門医、非専門医、不明	
14	スクラブイン人数	指導医	XX 人
		専門医	XX 人
		非専門医	XX 人 術者、助手の区別なく治療に参加したものをスクラブインとする。
15	治療対象疾患名（複数選択可）	破裂脳動脈瘤、未破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形、脊髄動静脈奇形（spinal dAVF 含む）、硬膜動静脈瘻、その他動静脈瘻（dCCF を含む）、頭頸部血管腫・奇形・腫瘍、頭蓋内腫瘍、頸部頸動脈狭窄症、頭蓋外椎骨動脈狭窄症、鎖骨下（腕頭）動脈狭窄症、頭蓋内動脈狭窄症、急性脳動脈閉塞症、静脈洞血栓症、クモ膜下出血後脳血管攣縮、その他	
16	実施治療法	脳動脈瘤塞栓術（瘤内塞栓術、母血管温存）、脳動脈瘤塞栓術（母血管閉塞術）、脳動静脈奇形塞栓術、脊髄病変塞栓術、硬膜動静脈瘻塞栓術、頭蓋内腫瘍塞栓術、頸動脈ステント留置術（動脈硬化性頸動脈狭窄症）、頭蓋外 PTA/stenting（動脈硬化性頸動脈狭窄症に対する頸動脈ステント留置術を除く）、頭蓋内 PTA/stenting、急性期再開通療法、脳血管攣縮に対する血管内治療、その他の血管内治療	
17	初回/再治療	初回、再治療（2回目）、3回目以降、不明	
18	麻酔	全身麻酔、局所麻酔、鎮静、その他、不明 全身麻酔：気管内挿管またはラリンジアルマスクを利用した閉鎖循環式全身麻酔 局所麻酔：穿刺部の局所麻酔 鎮静：静注、筋注、経口などによる鎮静剤の投与を併用した場合 その他：上記に分類できないもの 穿刺部の局所麻酔に鎮静剤投与を併用した場合は、両者にチェックを入れる。調整呼吸を行ったものは全身麻酔とする。	
19	技術的成功 (technical success)	成功、不成功・企図のみ、その他 分類の詳細は以下のとおり 【成功】治療目的を達成した場合（脳動脈瘤塞栓術で neck remnant や body filling になった場合や、AVM・dAVF の partial embolization になった場合、急性期再開通療法で部分開通に終わった場合、血管形成術で血管拡張が予定の拡張を得られなかった場合など、治療目的を不十分ながらも達したと術者が判断した場合 【不成功・企図のみ】治療が行えなかった場合（脳動脈瘤塞栓術でコイル留置ができなかった、AVM・dAVF の塞栓術で全く治療	

		ができなかった、再開通療法でカテーテルが目的位置に誘導できなかった、全く再開通できなかった 等)	
20	治療の合併症 (治療開始から術後 24 時間以内に発生した 症候性合併症を分類する)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	出血性合併症 (脳神経領域)、虚血性合併症 (脳神経領域)、穿刺部合併症、コレステリン塞栓症、全身合併症、その他
		有の場合 転帰	死亡、重度障害 (mRS 2 以上の低下)、軽度障害 (mRS 1 の低下)、一過性(30 日以内に回復)、無症候、その他、不明

6.2. 個別治療調査項目

各治療法について、当該症例が当てはまる項目に回答する。

6.2.1. 脳動脈瘤塞栓術 (瘤内塞栓術、母血管温存)

	項目名	選択肢 (注意事項)
◆疾患情報		
1	症候	破裂脳動脈瘤、未破裂 (症候性)、未破裂 (SAH 合併)、未破裂 (無症候性)、不明
2	SAH 重症度 (WFNS Grade)	I、II、III、IV、V、不明 注)「1) 症候：破裂脳動脈瘤」選択時のみ (6.3.4 参照)
3	SAH 治療日	24 時間以内、72 時間以内、4-7 日、8-14 日、15-30 日、31 日以降、不明 注)「1) 症候：破裂脳動脈瘤」選択時のみ記載
4	部位 (複数回答可)	ICA-cavernous、ICA-paraclinoid、ICA-Pcom、ICA-ant.choroidal、ICA-bif、MCA、A1、Acom、dACA、VA、BAtrunk、BAsca、BABif、PCA、VAPICA、others(ant.circulation)、others(post.circulation)、不明
5	最大径	3mm 未満、3-5mm 未満、5-7mm 未満、7-10mm 未満、10-25mm 未満、25mm 以上、不明
6	形状	small size/small neck、small size/wide neck、large、giant、non-saccular、不明 最大径とネック径を用い、上記 4 つへ分類する。(6.3.2 参照)
7	血管撮影装置	single plane、bi-plane、不明
8	3D 回転血管撮影装置	有、無、不明
◆治療情報		
9	治療戦略 (重複回答可)	シンプル、ダブルカテーテル、バルーン・アシスト、ステント・アシスト、ステントのみ、その他、不明 (6.3.5 参照)
10	使用コイル	Bare Platinum、Bioactive、Hydrogel coil、その他、不明 Bioactive coil=Matrix2

		Hydrogel coil =Hydro coil、Hydrosoft、Hydroflame Bare Platinum=その他のコイル	
11	塞栓結果	CO、NR、BF、PAO、AT、不明 術直後の DSA もしくは MRA 画像を使用し判定する (6.3.3 参照)	
12	術中ヘパリン	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 タイミング	シース留置後、マイクロカテーテル留置後、コイル誘導後、その他、不明 (複数選択可)
13	術前抗血小板薬 (複数選択可)	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 使用薬剤詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
14	術後抗血栓療法 (複数選択可)	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 使用薬剤詳細	ヘパリン、アルガトロバン、オザグレル、その他、不明
15	術後抗血小板薬 (複数選択可)	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 使用薬剤詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
◆合併症 (治療開始～術後 30 日以内) ※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
16	術中治療合併症 (治療室入室から退室まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	脳動脈瘤破裂、血管穿孔、血管破裂、血管解離、遠位塞栓症、分枝閉塞、母血管閉塞、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 原因	ガイドワイヤー、マイクロカテーテル、コイル、バルーン、ステント、その他、不明
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
17	術後治療合併症 (治療室退室から術後 30 日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	脳動脈瘤破裂、血管穿孔、血管破裂、血管解離、遠位塞栓症、分枝閉塞、母血管閉塞、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 原因	ガイドワイヤー、マイクロカテーテル、コイル、バルーン、ステント、その他、不明
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.2. 脳動脈瘤塞栓術（母血管閉塞術）

項目名		選択肢（注意事項）	
◆疾患情報			
1	症候	破裂脳動脈瘤、未破裂（症候性）、未破裂（SAH 合併）、未破裂（無症候性）、不明	
2	SAH 重症度（WFNS Grade）	I、II、III、IV、V、不明 注）「1）症候：破裂脳動脈瘤」選択時のみ（6.3.4 参照）	
3	SAH 治療日	24 時間以内、72 時間以内、4-7 日、8-14 日、15-30 日、31 日以降、不明 注）「1）症候：破裂脳動脈瘤」選択時のみ記載	
4	部位 （複数回答可）	ICA-cavernous、ICA-paraclinoid、ICA-Pcom、ICA-ant.choroidal、ICA-bif、MCA、A1、Acom、dACA、VA、BAtrunk、BAsca、BABif、PCA、VAPICA、others(ant.circulation)、others(post.circulation)、不明	
5	最大径	3mm 未満、3-5mm 未満、5-7mm 未満、7-10mm 未満、10-25mm 未満、25mm 以上、不明	
6	形状	small size/small neck、small size/wide neck、large、giant、non-saccular、不明（6.3.2 参照）	
7	血管撮影装置	single plane、bi-plane、不明	
8	3D 回転血管撮影装置	有、無、不明	
◆治療情報			
9	治療戦略（複数選択可）	proximal occlusion、internal trap、その他、不明	
10	使用コイル（複数選択可）	Bare Platinum、Bioactive、Hydrogel coil、その他、不明 Bioactive coil=Matrix2 Hydrogel coil =Hydro coil、Hydrosoft、Hydroflame Bare Platinum=その他のコイル	
11	塞栓結果	CO、PO、AT、不明（6.3.3 参照）	
12	術中ヘパリン	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 タイミング	シース留置後、マイクロカテーテル留置後、コイル誘導後、その他、不明
13	術前抗血小板薬 （複数選択可）	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
14	術後抗血栓療法 （複数選択可）	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	ヘパリン、アルガトロバン、オザグレル、その他、不明
15	術後抗血小板薬 （複数選択可）	使用の有無	有、無、不明
		有の場合	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピ

		詳細	ドグレル、その他、不明
◆合併症（治療開始～術後 30 日以内）※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
16	術中治療合併症 （治療室入室から退室まで）	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	脳動脈瘤破裂、血管穿孔、血管破裂、血管解離、遠位塞栓症、分枝閉塞、その他（6.3.7 参照）
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
17	術後治療合併症 （治療室退室から術後 30 日まで）	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	脳動脈瘤破裂、血管穿孔、血管破裂、血管解離、遠位塞栓症、分枝閉塞、その他（6.3.7 参照）
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.3. 脳動静脈奇形塞栓術

	項目名	選択肢（注意事項）	
◆疾患情報			
1	症候	出血性、非出血症候性、無症候性、不明	
2	nidus 部位 （複数選択可）	前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉、大脳基底核、視床、脳幹、小脳、その他、不明	
3	eloquent brain 関与の有無	有、無、不明	
4	nidus 最大径	3cm 未満、3-6cm 未満、6cm 以上、不明	
5	深部ドレナージ	有、無、不明	
6	Spetzler&Martin Grade	1、2、3、4、5、不明（6.3.6 参照）	
7	流入血管の分類	前大脳動脈、中大脳動脈、後大脳動脈、小脳動脈（SCA、AICA、PICA）、脈絡叢動脈、穿通枝、硬膜枝、その他、不明（複数選択可）	
8	動脈瘤	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	feeder、intra-nidial、unrelated、不明（複数選択可）
9	流出静脈の状態	閉塞、狭窄、静脈瘤、不明	
10	血管内治療回数	初回、2 回目、3 回目、4 回目以上、不明	
◆治療情報			
11	塞栓術の治療戦略	根治的塞栓術、部分塞栓のみ、摘出手術前塞栓術、定位放射線照射前塞栓術、その他、不明	

		部分塞栓のみ=摘出も定位放射線照射も予定しない 複数回の塞栓術を予定した場合、塞栓術を総合しての治療戦略を入力する。	
12	塞栓前誘発試験実施	有無	有、無、不明
13	モニター	脳波、誘導電位、その他、実施せず、不明（複数選択可）	
14	マイクロカテーテル	フローガイド、オーバーザワイヤー、不明	
15	塞栓物質	離脱型コイル、押出コイル、液体塞栓物質（重合型）、ONYX、液体塞栓物質（ONYX 以外の析出型）、粒状塞栓物質、その他、不明（複数選択可） 重合型=syanoacrylate 系 析出型=EVAL、Eudragid など 粒状塞栓物質=PVA particle など	
16	治療血管数	企図のみ、1、2、3、4、5 血管以上、不明	
17	塞栓結果	nidus	total、subtotal、partial、unchange、その他、不明
		draining	消失（完全閉塞）、循環遅延有、循環遅延無、その他、不明
18	塞栓後神経所見	改善、不変、悪化、その他、施行せず、不明	
◆合併症（治療開始～術後 30 日以内）※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
19	術中治療合併症 （治療室入室から退室まで）	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	AVM 破裂、血管穿孔、血管破裂、血管解離、遠位塞栓症、正常血管閉塞、静脈路閉塞、カテーテル残存、その他（6.3.7 参照）
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
20	術後治療合併症 （治療室退室から術後 30 日まで）	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	AVM 破裂、血管穿孔、血管破裂、血管解離、遠位塞栓症、正常血管閉塞、静脈路閉塞、カテーテル残存、その他（6.3.7 参照）
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.4. 脊髄病変塞栓術

項目名		選択肢（注意事項）
◆疾患情報		
1	診断	spinal dAVF、spinal perimedullary AVM、spinal intramedullary

		AVM、spinal tumor、その他、不明	
2	症候	出血性、非出血症候性、無症候性、不明	
3	部位（複数回答可）	頸部、胸部、腰仙部、その他、不明	
4	流入血管数	single、複数、不明	
◆治療情報			
5	塞栓術の治療戦略	根治的塞栓術、部分塞栓のみ、摘出手術前塞栓術、定位放射線照射前塞栓術、その他、不明	
6	血管内治療回数	初回、2回目、3回目、4回目以上、不明	
7	塞栓前誘発試験実施	有無	有、無、不明
8	モニター	脳波、誘発電位、その他、実施せず、不明（複数選択可）	
9	マイクロカテーテル	フローガイド、オーバーザワイヤー、不明	
10	塞栓物質	離脱型コイル、押出コイル、液体塞栓物質（重合型）、ONYX、液体塞栓物質（ONYX 以外の析出型）、粒状塞栓物質、その他、不明（複数選択可） 重合型=syanoacrylate 系 析出型=EVAL,Eudragid,など 粒状塞栓物質=PVA particle など	
11	治療血管数	企図のみ、1、2、3、4、5 血管以上、不明	
12	塞栓結果	nidus	total、subtotal、partial、unchange、その他、不明
		draining	消失（完全閉塞）、循環遅延有、循環遅延無、その他、不明
13	塞栓後神経所見	改善、不変、悪化、その他、施行せず、不明	
◆合併症（治療開始～術後 30 日以内）※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
14	術中治療合併症 （治療室入室から退室まで）	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	病変出血、血管穿孔、血管破裂、血管解離、遠位塞栓症、正常血管閉塞、静脈路閉塞、カテーテル残存、その他（6.3.7 参照）
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
15	術後治療合併症 （治療室退室から術後 30 日まで）	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	病変出血、血管穿孔、血管破裂、血管解離、遠位塞栓症、正常血管閉塞、静脈路閉塞、カテーテル残存、その他（6.3.7 参照）
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.5. 硬膜動静脈瘻塞栓術

項目名		選択肢（注意事項）	
◆疾患情報			
1	症候（発症形式）	頭蓋内出血、痙攣、CCF 症状（眼球突出、chemosis、眼球運動障害）、 静脈梗塞に伴う神経症状、頭痛のみ、耳鳴り・血管雑音のみ、無症候、 その他、不明	
2	部位（脊髄は除く） （複数回答可）	CS、TS/SS、Ant cranial fossa、SSS、Tentorium、Condylar-marginal sinus、SPS、Cranio-cervical junction、その他、不明	
3	周囲正常 sinus の状態	進入路あり、進入路なし（isolated sinus 等）、その他、不明	
4	頭蓋内静脈逆流の有 無	有（Varix を伴う）、有（Varix を伴わない）、無、不明	
◆治療情報			
5	血管内治療回数	初回、2 回目、3 回目、4 回目以上、不明	
6	塞栓術の治療戦略	根治的塞栓術、部分閉塞のみ、摘出手術前塞栓術、定位放射線照射前 塞栓術、その他、不明	
7	塞栓方法	TAE、TVE、TAE+TVE、その他、不明 ※ TAE：経動脈的塞栓術 TVE：経静脈的塞栓術	
8	モニター	脳波、誘発電位、その他、実施せず、不明（複数選択可）	
9	TAE 情報 （「7 塞栓方法」で 「TAE」又は 「TAE+TVE」を選択 した場合のみ回答）	マイクロカテ ーテル	フローガイド、オーバーザワイヤー、その他、不明（複 数選択可）
		塞栓物質	離脱型コイル、押出コイル、液体塞栓物質（重合型）、 ONYX、液体塞栓物質（ONYX 以外の析出型）、粒状 塞栓物質、その他、不明（複数選択可） 重合型=syanoacrylate 系 析出型=EVAL、Eudragid など 粒状塞栓物質=PVA particle など
		塞栓結果	total、subtotal、partial、unchange、その他、不明
10	TVE 情報（「7 塞栓方 法」で「TVE」又は 「TAE+TVE」を選択 した場合のみ回答）	アプローチ路	経皮的、穿頭/開頭、その他、不明（複数選択可）
		マイクロカテ ーテル	フローガイド、オーバーザワイヤー、不明（複数選択 可）
		塞栓物質	離脱型コイル、押出コイル、液体塞栓物質（重合型）、 ONYX、液体塞栓物質（ONYX 以外の析出型）、粒状 塞栓物質、その他、不明（複数選択可） 重合型=syanoacrylate 系 析出型=EVAL、Eudragid、など 粒状塞栓物質=PVA particle など
		塞栓結果	total、subtotal、partial、unchange、その他、不明
◆合併症（治療開始～術後 30 日以内）※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			

11	術中治療合併症 (治療室入室から退室まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、動脈側遠位塞栓、動脈閉塞による虚血、静脈閉塞による出血、静脈閉塞による出血以外の症状悪化、カテーテル残存、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
12	術後治療合併症 (治療室退室から術後 30 日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、動脈側遠位塞栓症、動脈閉塞による虚血、静脈閉塞による出血、静脈閉塞による出血以外の症状悪化、カテーテル残存、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.6. 頭蓋内腫瘍塞栓術

	項目名	選択肢 (注意事項)	
◆疾患情報			
1	疾患	髄膜種、血管芽種、神経膠腫、その他、不明	
2	治療血管 (複数選択可)	外頸動脈系、内頸動脈系、椎骨脳底動脈系、その他、不明	
◆治療情報			
3	治療方法	塞栓術、化学療法、その他、不明 (複数選択可)	
4	塞栓物質 (TAE) (※TAE: 経動脈的塞栓術)	離脱型コイル、押出コイル、液体塞栓物質 (重合型)、ONYX、液体塞栓物質 (ONYX 以外の析出型)、粒状塞栓物質、その他、不明 (複数選択可) 重合型=syanoacrylate 系 析出型=EVAL, Eudragid, など 粒状塞栓物質=PVA particle など	
5	塞栓結果	total、subtotal、partial、unchange、その他、不明	
◆合併症 (治療開始～術後 30 日以内) ※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
6	術中治療合併症 (治療室入室から退室まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、動脈側遠位塞栓症、動脈閉塞による虚血、静脈閉塞による出血、静脈閉塞による出血以外の症状悪化、カテーテル残存、その他 (6.3.7 参照)

		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
7	術後治療合併症 (治療室退室から術後30日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後24時間以内、術後7日以内、術後30日以内、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、動脈側遠位塞栓症、動脈閉塞による虚血、静脈閉塞による出血、静脈閉塞による出血以外の症状悪化、カテーテル残存、その他(6.3.7参照)
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.7. 頸動脈ステント留置術（動脈硬化性頸動脈狭窄症）

	項目名	選択肢（注意事項）	
◆疾患情報			
1	症候	無症候性、黒内障、TIA（大脳）、Minor stroke、Major stroke、Progressing、不明	
2	治療時期（最終発作から）	24時間以内、14日以内、15日以降、不明	
3	狭窄度（NASCET）	50%未満、50-60%未満、60-70%未満、70-80%未満、80-90%未満、90-95%未満、pseudo-occlusion、100%、不明	
4	狭窄度（PSV）	100cm/s 未満、100-130cm/s 未満、130-200cm/s 未満、200-300cm/s 未満、300cm/s 以上、不明	
5	プラーク超音波輝度	高輝度、等輝度、低輝度、石灰化、不明	
6	MRI TOF 高信号	有、無、不明	
7	CEA High Risk (Sundt 改変)	有無	有、無、不明(6.3.8参照)
◆治療情報			
8	ガイディング (複数回答可)	カテーテル、バルーン付カテーテル、MOMA、ロングシース、その他、不明	
9	プロテクション	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	distal filter、distal balloon、Proximal、その他、不明(複数選択可)
10	前拡張	実施の有無	有、無、不明
11	使用ステントの種類	Open-cell、Close-cell、その他、不明(複数選択可)	
12	後拡張	実施の有無	有、無、不明
13	吸引前 flow	Normal、Slow、No、その他、不明	

14	治療直後の残存狭窄	30%未満、30-50%未満、50%以上、不明	
15	術前抗血小板薬 (複数選択可)	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
16	術後抗血栓療法 (複数選択可)	実施の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	ヘパリン、アルガトロバン、オザグレル、その他、不明
17	術後抗血小板薬 (複数選択可)	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
◆合併症（治療開始～術後30日以内）※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
18	術中治療合併症 (治療室入室から退室まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、血管解離、過灌流、急性閉塞、遠位塞栓症、心筋梗塞、その他(6.3.7参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
19	術後治療合併症 (治療室退室から術後30日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後24時間以内、術後7日以内、術後30日以内、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、血管解離、過灌流、急性閉塞、遠位塞栓症、心筋梗塞、その他(6.3.7参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.8. 頭蓋外 PTA/Stenting（動脈硬化性頸動脈狭窄症に対する頸動脈ステント留置術を除く）

	項目名	選択肢（注意事項）	
◆疾患情報			
1	疾患（複数回答可）	動脈硬化症、Aortitis、FMD、外傷性解離、医原性解離、特発性解離、その他、不明	
2	部位（複数回答可）	総頸動脈起始部、外頸動脈、椎骨動脈、腕頭、鎖骨下動脈（VA近位）、鎖骨下動脈（VA遠位）、不明	
3	抗血栓療法に対する薬物抵抗	有無	有、無、不明 抗血栓療法＝抗血小板療法、抗凝固療法とする
		有の場合 症状詳細	無症候性、黒内障、TIA（大脳）、Minor stroke、Major Stroke、Progressing、不明（複数選択可）
4	治療時期 (最終発作から)	24時間以内、14日以内、15日以降、不明	

5	狭窄率 (ECST 法を想定)	50%未満、50-70%未満、70-100%未満、100%、不明	
◆治療情報			
6	治療戦略	PTA、stenting (予定は PTA)、予定 stenting、その他、不明 (複数選択可)	
7	プロテクション	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	distal filter、distal balloon、proximal protection、 その他、不明 (複数選択可)
8	ステント使用	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	Open-cell、Close-cell、balloon 拡張型、その他、不明 (複数選択可)
9	後拡張	実施の有無	有、無、不明
10	治療直後の残存狭窄	30%未満、30-50%未満、50%以上、不明	
11	術前抗血小板薬 (複数選択可)	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
12	術後抗血栓療法 (複数選択可)	実施の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	ヘパリン、アルガトロバン、オザグレル、その他、不明
13	術後抗血小板薬 (複数選択可)	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
◆合併症 (治療開始～術後 30 日以内) ※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
14	術中治療合併症 (治療室入室から退室まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、血管解離、過灌注、急性閉塞、遠位塞栓症、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
15	術後治療合併症 (治療室退室から術後 30 日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、血管解離、過灌注、急性閉塞、遠位塞栓症、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.9. 頭蓋内 PTA/Stenting

	項目名	選択肢（注意事項）	
◆疾患情報			
1	疾患（複数回答可）	動脈硬化症、外傷性解離、医原性解離、特発性解離、その他、不明	
2	部位（複数回答可）	IC（頭蓋内硬膜外）、IC（硬膜内）、ACA、MCA、VA（V4）、BA、その他、不明	
3	脳血流診断	実施の有無	有、無、不明
4	抗血栓療法に対する薬物抵抗性	有無	有、無、不明 抗血栓療法＝抗血小板療法、抗凝固療法とする
5	診断時症候	無症候性、黒内障、TIA（大脳）、minor stroke、major stroke、progressing、不明	
6	治療時期（最終発作から）	24 時間以内、14 日以内、15 日以降、不明	
7	正常血管径（WASID）	2mm 未満、2 - 2.5mm 未満、2.5 - 3mm 未満、3 - 3.5mm 未満、3.5 - 4mm 未満、4mm 以上、不明	
8	狭窄率（WASID）	50%未満、50 - 60%未満、60 - 70%未満、70 - 80%未満、80 - 90%未満、90 - 100%未満、100%、不明	
9	病変長	5mm 未満、5 - 10mm 未満、10 - 15mm 未満、15mm 以上、不明	
◆治療情報			
10	治療戦略	PTA、Stenting（予定は PTA）、予定 Stenting、その他、不明（複数選択可）	
11	ステント使用	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	冠動脈用、自己拡張、balloon 拡張型、その他、不明（複数選択可）
12	後拡張	実施の有無	有、無、不明
13	術後の残存狭窄	30%未満、30 - 50%未満、50%以上、不明	
14	術前抗血小板薬 （複数選択可）	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
15	術後抗血栓療法 （複数選択可）	実施の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	ヘパリン、アルガトロバン、オザグレル、その他、不明
16	術後抗血小板薬 （複数選択可）	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
◆合併症（治療開始～術後 30 日以内）※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
17	術中治療合併症	有無	有、無、不明

	(治療室入室から退室まで)	有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、血管解離、過灌注、急性閉塞、遠位塞栓症、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
18	術後治療合併症 (治療室退室から術後 30 日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、血管解離、過灌注、急性閉塞、遠位塞栓症、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.10. 急性期再開通療法

	項目名	選択肢 (注意事項)	
◆疾患情報			
1	診断 (最終)	心原性塞栓、動脈源性塞栓、アテローム血栓、医原性、その他、不明	
2	部位 (複数回答可)	ICA (頸部～頭蓋底)、ICA (硬膜内)、ICA (IC-T)、M1 近位部 (5mm 未満)、M1 遠位部、M2 または以遠、A1、A2 または以遠、VA 頸部 (V1-3)、VA 頭蓋内 (V4)、BA、PCA、VAPICA、その他、不明	
3	治療前 NIHSS	0～42 点 (記入)、不明 (19.2 NIHSS ガイドライン 参照)	
4	術前診断法	CT、MRI、CBF、エコー、不明 (複数選択可)	
5	術前 ASPECTS	0-10 点、不明 (6.3.9 参照)	
6	術前 ASPECTS-DWI (11 点法)	0-11 点、不明 (6.3.9 参照)	
◆治療情報			
7	治療開始時間 (発症または最終確認時間から)	3 時間未満、3 - 4.5 時間未満、4.5 - 6 時間未満、6 - 8 時間未満、8-12 時間未満、12 時間以上、不明	
8	治療分類	局所線溶 (UK)、局所線溶 (tPA)、PTA、stent、吸引 (penumbra 以外)、Penumbra、血栓回収 (MERCİ 以外)、MERCİ、その他、不明	
9	TICI grade	0、1、2a、2b、3、不明 (6.3.10 参照)	
10	治療結果 (術直後)	完全開通、部分開通、不変、不明	
11	NIHSS (術後 24 時間時点)	0～42 点 (記入)、不明 (19.2 NIHSS ガイドライン 参照)	
12	NIHSS (術後 7 日時点)	0～42 点 (記入)、不明 (19.2 NIHSS ガイドライン 参照)	
13	併用内科治療	実施の有無	有、無、不明

	(複数選択可)	有の場合 詳細	tPA 静注 (先行)、ヘパリン、アルガトロバン、オザグレル、その他、不明
14	術後抗血栓療法 (複数選択可)	実施の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	ヘパリン、アルガトロバン、オザグレル、その他、不明
15	術後抗血小板薬 (複数選択可)	使用の有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール、クロピドグレル、その他、不明
◆合併症 (治療開始～術後 30 日以内) ※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
16	術中治療合併症 (治療室入室から退室まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	機械性出血、非機械性出血、血管解離、急性閉塞、遠位閉塞、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
17	術後治療合併症 (治療室退室から術後 30 日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	機械性出血、非機械性出血、血管解離、急性閉塞、遠位閉塞、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
18	術後頭蓋内出血	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	HI1、HI2、PH1、PH2、SAH、異所性、その他 (ECASS の出血の分類を引用)
		有の場合 症状の悪化	NIHSS ≥ 4 の悪化あり、NIHSS 1-3 の悪化あり、無症状、不明

6.2.11. 脳血管攣縮に対する血管内治療

	項目名	選択肢 (注意事項)
◆疾患情報		
1	対象脳動脈瘤	破裂脳動脈瘤、未破裂脳動脈瘤、不明
2	先行治療	直達手術、血管内治療、未治療、その他、不明
3	部位	前方循環 (ICA/M1)、前方循環 (ICA/M1 以外)、後方循環 (VA/VB)、後方循環 (VA/VB 以外)、その他、不明 (複数選択可)
◆治療情報		
4	治療開始時間	3 時間未満、3-6 時間未満、6 時間以上、不明

	(発症から)		
5	治療分類 (主たる手技)	局所動注、PTA、その他、不明	
6	治療結果	画像	改善、不変、悪化、不明
		神経学的	改善、不変、悪化、不明
◆合併症 (治療開始～術後 30 日以内) ※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
7	術中治療合併症 (治療室入室から退室まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	機械性出血、非機械性出血、血管解離、急性閉塞、遠位閉塞、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明
8	術後治療合併症 (治療室退室から術後 30 日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不明
		有の場合 詳細	機械性出血、非機械性出血、血管解離、急性閉塞、遠位閉塞、その他 (6.3.7 参照)
		有の場合 対処	直達手術、血管内治療、保存的治療、その他、不明

6.2.12. その他の血管内治療

	項目名	選択肢 (注意事項)	
◆疾患情報			
1	診断	直接型 CCF、顔面血管腫/血管奇形、頭頸部動静脈瘻、鼻出血、頭蓋外腫瘍、その他、不明	
2	治療血管	外頸動脈系、内頸動脈系、椎骨脳底動脈系、鎖骨下動脈系 (VA を除く)、その他、不明	
3	血管内治療回数	初回、2 回目、3 回目、4 回目以上、不明	
◆治療情報			
4	塞栓術の治療戦略	根治的塞栓術、部分塞栓のみ、摘出手術前塞栓術、定位放射線照射前塞栓術、その他、不明 (複数選択可)	
5	塞栓方法	TAE、TVE、TAE+TVE、その他、不明	
6	TAE 情報 (塞栓方法で「TAE」 又は「TAE+TVE」を 選択した場合のみ回 答)	塞栓物質	離脱型コイル、押出コイル、液体塞栓物質 (重合型)、 ONYX、液体塞栓物質 (ONYX 以外の析出型)、粒状 塞栓物質、その他、不明 (複数選択可) 重合型=syanoacrylate 系 析出型=EVAL、Eudragid など 粒状塞栓物質=PVA particle など

		閉塞結果	total、subtotal、partial、unchange、その他、不明
7	TVE 情報 (塞栓方法で「TVE」 又は「TAE+TVE」を 選択した場合のみ回 答)	塞栓物質	離脱型コイル、押出コイル、液体塞栓物質（重合型）、 ONYX、液体塞栓物質（ONYX 以外の析出型）、粒状 塞栓物質、その他、不明（複数選択可） 重合型=syanoacrylate 系 析出型=EVAL、Eudragid など 粒状塞栓物質=PVA particle など
		閉塞結果	total、subtotal、partial、unchange、その他、不明
◆合併症（治療開始～術後 30 日以内）※本治療に起因する合併症のみ回答して下さい。			
8	術中治療合併症 (治療室入室から退 室まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、動脈側遠位塞栓症、動脈閉塞に よる虚血、静脈閉塞による出血、静脈閉塞による出血 以外の症状悪化、カテーテル残存、その他（6.3.7 参 照）
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その 他、不明
9	術後治療合併症 (治療室退室から術 後 30 日まで)	有無	有、無、不明
		有の場合 時期	術後 24 時間以内、術後 7 日以内、術後 30 日以内、不 明
		有の場合 詳細	血管穿孔、血管破裂、動脈側遠位塞栓症、動脈閉塞に よる虚血、静脈閉塞による出血、静脈閉塞による出血 以外の症状悪化、カテーテル残存、その他（6.3.7 参 照）
		有の場合 対処	開頭手術、穿頭手術、血管内治療、保存的治療、その 他、不明

6.3. 調査項目の定義及び注意事項

6.3.1. modified Rankin Scale(mRS)

Grade	Description
0	全く症状なし
1	症状があっても明らかな障害がない、通常の勤めや活動が遂行できる
2	軽度の障害、以前の活動がすべて遂行できるわけではないが、介助なしに自分の身の回りのことはできる
3	中等度の障害、何らかの介助を要するが、補助なしに歩くことができる
4	中等度から重度の障害、補助なしに歩くことができず、介助なしに自身の身体的要求を世話することができない

5	重度の障害、ベッド臥床で持続的な看護と監視が必要
6	死亡

6.3.2. 動脈瘤形状分類

分類	定義	
	最大径(A)	ネック径(N)
small size/small neck	10mm 未満	4mm 未満かつ A/N 1.5 以上
small size/wide neck	10mm 未満	4mm 以上または A/N 1.5 未満
large	10mm 以上、25mm 未満	規定なし
giant	25mm 以上	規定なし

6.3.3. 塞栓結果の定義

分類	定義
CO(完全)	造影剤がまったく動脈瘤内に流入しない
NR(ネック残存)	ネック近傍にのみ造影剤が流入する
BF(部分閉塞)	ドーム内に造影剤が流入する
PAO(母血管閉塞)	母血管を含めた脳動脈瘤の閉塞
PO	PAO に際し、完全閉塞を得られなかったもの
AT(試行のみ)	塞栓術の試行を行っただけ
NE(評価不能)	画像診断不能または未実施

6.3.4. 世界脳神経外科連合(WFNS)によるクモ膜下出血重症度分類(1983)

重症度	EMV score	主要な局所神経症状(失語あるいは片麻痺)
Grade I	15	なし
Grade II	14-13	なし
Grade III	14-13	あり
Grade IV	12-7	有無は不問
Grade V	6-3	有無は不問

Glasgow coma scale (EMV score)

- | | |
|--|--|
| <p>E. 開眼 (eye-opening)</p> <p>4. 自発的 (spontaneous)</p> <p>3. 言葉により (to speech)</p> <p>2. 痛み刺激により (to pain)</p> <p>1. なし (none)</p> | <p>V. 言語性反応 (best verbal response)</p> <p>5. 見当識あり (orientated)</p> <p>4. 錯乱状態 (confused)</p> <p>3. 不適當 (inappropriate)</p> <p>2. 理解できない (incomprehensible)</p> <p>1. なし (none)</p> |
| <p>M. 運動反応 (best motor response)</p> <p>6. 命令に従う (obeying)</p> <p>5. はらいのける (localizing)</p> <p>4. 逃避的屈曲 (withdrawal flexing)</p> <p>3. 異常な屈曲 (abnormal flexing)</p> <p>2. 伸展する (extending)</p> <p>1. なし (none)</p> | |

6.3.5. 治療戦略

シンプル：マイクロカテーテルを1本だけ使用し adjunctive method を利用しない離脱型コイル塞栓術

バルーン・アシスト：頭蓋内用オクルージョンバルーンを併用した塞栓術

ステント・アシスト：ステント留置を併用した塞栓術

6.3.6. Spetzler & Martin Grade

下表の合計点を選択する。

	0	1	2	3
Nidus の大きさ		3cm 未満	3-6cm 未満	6cm 以上
深部ドレナージ	なし	あり		
Eloquent brain の関与	なし	あり		

6.3.7. 治療合併症

血管穿孔＝脳動脈瘤以外の血管の器材による穿孔

血管破裂＝脳動脈瘤以外の血管の器材による破裂（例：アシストバルーンの拡張時の血管破裂）

血管解離＝出血および虚血を問わない

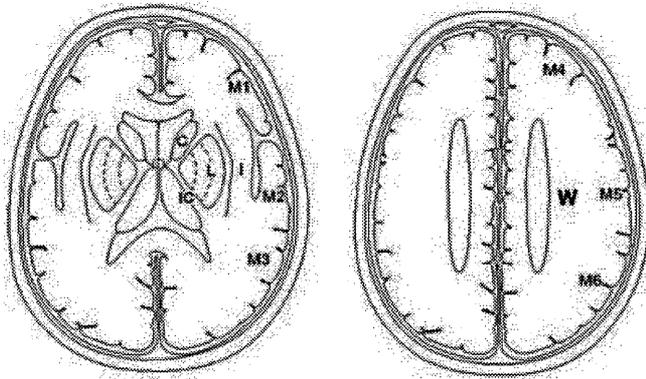
分枝閉塞＝脳動脈瘤に関連した分枝の機械的または血栓性閉塞

その他＝選択肢に分類されない治療合併症

6.3.8. CEA High Risk

内科的リスク	狭心症、6ヶ月以内の心筋梗塞、うっ血性心不全、重症高血圧、進行した末梢動脈硬化症(閉塞性動脈硬化症など)、慢性閉塞性肺疾患、高齢(70歳以上)、高度肥満
神経学的リスク	進行性脳卒中、24時間以内のTIA、7日以内の神経症候、全脳虚血、繰り返すTIA
解剖学的リスク	対側内頸動脈閉塞、タンデム病変、遠位進展(3cm)、近位進展(5cm)、高位病変(第2頸椎)、血栓を伴う潰瘍病変、偽性閉塞、CEA後再狭窄、放射線照射後、頸部手術後、対側舌下神経麻痺

6.3.9. ASPECTS ASPECTS-DWI (11点法)



- ASPECTS**
- C: 尾状核
 - I: 島皮質
 - L: レンズ核
 - IC: 内包(膝,後脚のみ)
 - M1: ant MCA
 - M2: lat MCA
 - M3: post MCA
 - M4: sup M1
 - M5: sup M2
 - M6: sup M3
- Total score 0~10

- ASPECTS-DWI** W: 深部白質(放線冠) Total score 0~11

6.3.10. TIC1 グレード

グレード	定義
0	灌流なし
1	再開通はあるが末梢灌流がほとんどないかゆっくり灌流
2a	血管支配領域の半分以下の灌流
2b	血管の半分以上の領域の灌流
3	末梢までの完全な灌流